全労連社会保障闘争本部ニュース No.110 2020 年 6 月 3 日

介護・ヘルパーネット NEWS



全国労働組合総連合〒113-8462 文京区湯島2-4-4全労連会館4階 TE03-5842-5611

'介護をよくするアクション月間" 実施中!

コロナ危機から、暮らし命を守りきり、 社会保障の再生を!~介護署名 3 万 3314 人分 (累計 22 万 1892 人分) 提出



全労連は5月27日、中央社保協や民医連、認知症の人と家族の会、21・老福連など7団体で介護・ 社保署名提出国会行動を行い、介護署名3万3314人分、25条署名16万406人分はじめ、75歳以上 医療費窓口負担2割化反対署名、年金署名など合わせて41万3015人分を提出しました。日本共産党の 倉林明子参院議員、宮本徹衆院議員のはじめ、野党共闘でたたかっている立憲民主党の芳賀道也参院議 員、岡本あき子衆院議員が駆け付けて、署名を受け取り、川田龍平参院議員、石垣のり子参院議員の秘書 が参加しました。緊急事態宣言は解除されたものの、3密を避け、組織代表のみの参加としましたが、15組織 から31人が参加しました。

大企業・富裕層からきちんととって、働く人、中小業者への補償急げ

主催者を代表して、中央社保協の住江憲勇代表委員(保団連会長)は、「働く人、中小業者への

補償をしないための目くらまし的緊急事態宣言解除だ」「国は経済の失速や生活の苦しさをコロナのせいにしようとしているが何十年も続いてきた新自由政策によるものだ」と指摘し、「大企業・富裕層からきちんととって、厳しい国民生活を手当てすることが必要だ」と強調しました。

希望を持って働ける制度設計を一介護・ヘルパーネットの森永さん署名提出



各団体の代表者が一言述べながら署名を手渡しました。年金者組合の加藤益男さんが、「マクロ経済スライドの廃止と75歳過ぎても死ぬまで働けという制度をなくしてほしい」と述べ、28日に24万の年金署名提出を行ったことを報告しました。

全労連介護・ヘルパーネットからは東京の森永伊紀世話人が、全産業平均より8-9万円も低い介護職員の大幅賃上げと、1日2交替の長時間労働や危険な一人夜勤をしなければならない配置基準の引き上げを訴えました。特にヘルパーについては時給働きの日雇い労働者で、生活援助は素人でもできるといわれ、20代の新規参入は1%となっている現状を訴

え、希望を持って働ける制度設計を求めました。

声を政策に反映させる一野党議員が次々挨拶

国会議員が次々挨拶、衆院の日本共産党・宮本徹議員が、「デイサービスの利用控えが起こりへルパーをお願いしたくてもヘルパーがいない、処遇が低いから介護を支える人がいなくなっている」と指摘。「野党共同提案で介護・障害福祉で働く人の処遇改善の積極的提案をしてたことが、第2次補正の大臣提案に結び付いた」「世論と運動が力を合わせコロナ下での生活を守ろう」と呼びかけました。立憲民主の岡本あきこ衆院議員が「年金介護社会保障がセーフティネットの機能を果たさなければ安心して暮らせない働けない」「世論と共闘し、声を政策に反映させる」と決意を述べました。

本会議が長引き、参院の二人はあとから駆け付けてくれました。国民民主の芳賀道也議員は「医療も介護も大から小までこのままではやっていけないという声があふれている。現場の声をよせてください」。日本共産党の倉林明子議員は「医療介護に2兆円の補正予算が付いた。国民の声が後押しして出さざるを得なくさせたもの」と強調しました。

最後に中央社保協の岩橋祐治代表委員(全労連副議長・介護ヘルパーネット責任者)が閉会挨拶で、「コロナは人災の側面、安倍政権の対応のまずさとともに悪政のゆがみ矛盾が噴出している」と指摘。「コロナ危機から国民の命とくらしを守り切って社会保障の再生、生存権、社会保障責任を果たさせる、憲法が暮らしに生かされる政治を実現していきたい」と述べました。

終了後、介護ヘルパーネットの世話人で手分けして介護署名の紹介議員に署名を預けに行きました。主催はほかに、年金者組合、日本高齢期運動連絡会。25日に介護の緊急要請をともに行った「守ろう介護保険!市民の会」からも参加がありました。

紹介議員は衆・参合わせて 20 人になりました!

- 〈衆議院〉【厚労委員】①阿部知子(立憲・神奈川12)、②宮本徹(共産・(比)東京)、③白石洋一(国民・愛媛3)④中島克仁(無・山梨1)、⑤稲富修二(国民・(比)九州)、⑥小川淳也(立憲・(比)四国)、⑦岡本あき子(立憲・(比)東北)、⑧下条みつ(国民・長野2)、⑨岡本充功(国民・(比)東海)、【以下、愛労連より取り付け】⑩近藤正一(立憲・愛知3区)、⑪牧義夫(国民・(比)東海)、⑫関健一郎(国民・(比)東海)
- < 参議院>【厚労委員】①川田龍平(立憲・比例)、②芳賀道也(国民・山形)、③倉林明子(共産・京都) ④福島みずほ(立憲・比例)【野党統一候補(厚労委員以外)】⑤羽田雄一郎(民主・長野)、⑥高良鉄美(沖縄の風・沖縄)、⑦石垣のり子(立憲・宮城)⑧横沢高徳(国民・岩手)(順不同、敬称略)

第2波、第3波に備えた感染予防策を

介護現場の新型コロナウィルス緊急アンケート~日本医労連

明らかになった

「5 つの不足」

- ①物資の不足
- ②人員体制の不足
- ③補償の不足
- ④設備の不足
- ⑤情報の不足



日本医労連介護対策委員会と福祉部会では、新型コロナウィルスの影響で、介護現場で何が必要なのか、困っていることは何なのか?を明らかにするため、「新型コロナウィルス緊急アンケート」を実施しました。調査期間は 4 月 24 日~5 月 8 日で、日本医労連に加盟する高齢者福祉・障がい福祉・児童福祉を対象に調査を行い、189 事業所から回答を集約しました。調査結果は 5 月 29 日に記者会見を行い、14 社 14 人の報道陣が参加しました。記者会見では、調査結果から「5 つの不足」を強調しました。

介護現場では、「3 密」を回避することが難しく、3 大介護と言われる「入浴介助」「食事介助」「排泄介助」をはじめ密を避けられない現状がある。今後の第2波、第3波に備えて介護現場の感染予防策を求めることが重要だと訴えました。

☆調査の概要

- 1、新型コロナ感染者または感染疑い者「有」が 11 事業所
- 2、83%の事業所が「通常運営が出来ていない」
- 3、3 割の事業所で休業補償がない
- 4、現場の知ってほしいこと、知らせたいこと
 - ・感染リスクが高い/労働者・利用者のストレスが高い
 - ・介護現場は生活の場であり、医療体制を充実してほしい

☆現場の声☆☆☆

「介護職へも手当を早く検討してほしい」「介護分野の人手不足は今後もほかの病気が広がった 時にも対応できません。給料・待遇についてきちんと考えてほしい」

【医労連 Mail NewsN0149 より】

<お知らせ>

6月も引き続き介護をよくするアクション月間とします。宣伝の写真など送ってください。 介護現場の要求を#介護現場からのSOSでアピールしましょう。